

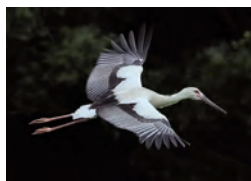
野田市

健康で笑顔あふれる
まちづくりを



野田市は、利根川や江戸川などに囲まれた水と緑に恵まれたまちです。歴史的に、市の北部は江戸の防衛と水運の要衝である関宿城の城下町として、南部は江戸っ子の食文化を支えた醤油醸造業の町として発展してきました。

近年、首都圏では希少となった谷津田(斜面林に囲まれた谷地にある田んぼ)を保全しており、恵まれた自然環境を次世代につなぐと、農業や化学肥料をできるだけ使わない米づくりを進めています。平成24年から、田んぼの食物連鎖の頂点に立つコウノトリを生物多様性のシンボルとして位置付け、野生復帰事業を進めた結果、令和6年春に野田の自然環境でペアリングし、孵化ヒナが誕生、野田の空へ巣立つことで、野生復帰が実現しました。



また、太平洋戦争を終戦に導いた第42代内閣総理大臣の鈴木貫太郎翁や近代将棋の礎を築いた関根金次郎十三世名人が輩出されており、

市内には偉業を後世に伝える記念館がそれぞれ設置されています。鈴木貫太郎記念館は、19年の台風の影響で雨漏りが発生し、耐震強度不足が明らかとなったことから臨時休館しています。市では、功績を後世に伝えるために、資料の展示や収集、保存に必要な設備を整備して、多くの人が繰り返し訪れる魅力を持つ記念館に再建し、あわせて、関宿地域の賑わいづくりを行っていく予定です。

市では、昨年4月に「健康スポーツ文化都市」を宣言しました。この宣言では、健康は市民すべての願いであり、まちの活力の源であること、また、子どもから大人まで、障がいのある人もない人も、スポーツや文化活動を通じて人と人との交流を深め、人間力を育み、人づくり、まちづくりにつなげていくことを誓っています。

来年には市制施行75周年を迎えます。今後も、豊かな自然環境や培われてきた歴史と文化を大切にしながら市民の皆さんが安全に安心して暮らせるまちづくりに取り組んでまいります。

富津市

「誇りと愛着を持てるまち
ふつつ」の実現に向けて



富津市は、房総半島の中西部東京湾側に位置し、南北40kmにおよぶ海岸線、緑豊かな鹿野山、切り立った崖の鋸山、晩秋の溪谷を鮮やかに彩るもみじロードなど海と山に囲まれ千葉県下でも有数の自然環境を有しています。

本市北部の東京湾に突き出した富津岬は南房総国定公園に指定され、千葉県立富津公園、富津海岸潮干狩り場、富津海水浴場など、多くの観光客の皆さまをお迎えしています。富津岬先端の明治百年記念展望塔に登れば、歴史ある海堡や船舶の行き交う東京湾、その先には雄大な富士山も望むことができます。



また本市では、昨年4月に市民の皆さんが待ち望んでいた図書館施設をイオンモール富津内に開館しました。商業施設の中の図書館ということで、市民の皆さんの日常生活圏に溶け込むスタイルの図書館であり、当初の予想をはるかに超え、開館後半年で来館者10万人を達成しまし

た。この図書館を基幹館と位置づけ、これまでの公民館等図書室、移動図書館に加え、図書館と主要施設を結ぶ図書の配送や小中学校、福祉施設などへの団体貸出等を行う軽自動車型の図書館車など、すべての図書施設の連携により市内全域の図書サービスのネットワークを図ることで、より市民の皆さんが利用しやすい図書環境の構築を進めています。



令和4年6月には、今後の市の総合的かつ計画的なまちづくりの指針となる「富津市みらい構想」を策定しました。本構想では、目指す10年後の将来像を「誇りと愛着を持てるまち ふつつ」とし、市民の皆さんとの連携・協働のもと、その実現に向け取り組んでいます。

これからも市民の皆さんと行政がともに手を携え、ふるさと富津市の未来を築き、富津市に住んで良かった、住み続けたいと感じていただける魅力的なまちづくりを推進してまいります。

柏市

「つづくを、つなぐ。」を合言葉に
変化を恐れず進んでいく



柏市は、柏駅を中心に賑わいと活気のある中央部、先進技術の研究開発を行い公民学が連携してまちづくりを進める北部、豊かな自然が残る手賀沼や良質な住居エリアが広がる東部や南部など、エリアごとに特色があります。

思い出とともに新しい物語へ

今年、市制施行70周年を迎え、柏市に対する前向きな気持ちや市民の皆様と共有できるよう、様々な記念事業を実施しています。5月には、柏駅前のシンボルだった旧そごう柏店の解体前に、柏駅前の発展の軌跡をたどる写真展や、昭和の熱気あふれる縁日などを行った、3日間限定のイベント「プレイバック柏」を開催しました。たくさんの方の思い出が詰まったこの場所への関心は高く、イベントには定員の10倍近くの3万7千人の応募がありました。今後、駅前の再整備は、再び始まる柏駅前の新しい物語へと続いていきます。



また、例年

開催される柏まつりでは、柏おどりの曲調をアレンジした「シン☆柏おどり」が初登場。柏駅前が熱く盛り上がりました。



「Teetote」で子育てを応援

3月には、子育て支援のシンボルとなる柏市子ども子育て支援複合施設「Teetote(てとて)」を柏駅前に開設しました。妊婦から高校生まで、すべての年代を対象に、子どもも成長にあわせて居場所づくりや親への支援に取り組んでいきます。



「住み続けたいくなる、魅力的なまち・柏」を目指して

これまで市民の皆さんと共に作り上げてきた今を受け継ぎながら、変化を恐れずに進みつづけ、愛される柏を未来につなげていくことを目指して、これからも柏市の価値向上に努めていきます。

浦安市

人が輝き躍動するまち・浦安
―すべての市民の幸せのために―



浦安市は、かつては陸の孤島と呼ばれた漁師町でしたが、今では、首都圏屈指の住宅都市、東京ディズニーリゾート®を擁するアーバンリゾートのまち、日本最大の機能を誇る鉄鋼流通基地を持つまちとして発展を遂げました。住宅開発などが最終盤となり、成熟期を迎えるなか、まちの活力や心の豊かさを醸成する「質的充実」に軸足をおいたまちづくりに取り組んでいます。

誰もが生き生きと暮らせるまちへ

自治会集会所などで地域包括支援センターのサテライトを開設し、市民の身近な場所での相談を実施するとともに、地域包括支援センターにスクラライフカウンセラーを配置し、親の介護と子育てという「ダブルケア」にも対応しています。子ども医療費の高校生相当年齢までの無償化や小・中学生の学校給食費の無償化、病児保育の充実など子育てしやすい環境の充実を図っています。子どもたちの多様な学びの場の確保として、県立特別支援学校の開

校に向け、千葉県と連携して取り組むとともに、学習意欲はあるものの学校に行けない生徒のために、千葉県内初となる「学びの多様化学校」の令和7年度開校に向け取り組んでいます。

世界につながる観光都市へ

本市は、年間約3000万人が訪れる観光都市であり、この優位性をまちづくりに活かし、国際会議などMICEの誘致を進めるとともに、国際観光都市としてふさわしい行政サービスが提供できるよう宿泊税の導入を検討しています。

また、本市の水際線を活用した自転車ロードレースの浦安クリテリウムや、花火大会・マラソン大会の開催など、人流の活発化を図り、さらなるまちの活力を創出していきます。

